

# 新幹線情報

2009年 5月 6日  
第11号

J R 東海 労新幹線地本

## 葛西会長の本音を代弁する管理者たち！ 社員は会社の奴隷だった??

5月 4日 日本中はゴールデンウィークの真最中！ そんな中、東京第二車両所の修繕班の社員が体調不良ため、会社に「明日の勤務を休ませて欲しい」と修繕担当助役に電話したところ、「・・・出勤するように」と電話越しにいったそうです。その社員は体の調子が悪いにも拘らず無理をして出勤しました。しかし、4日の昼頃には、体調がさらに悪くなり他の助役と急遽病院へ行ったのです。そのときの体温は「38.5度」の熱があったそうです。病院へ一緒に行った助役は、ドクターの診察後その社員を自宅へと帰しました。

ここで問題なのは、前日の助役がなぜ「具合が悪いからや休ませて欲しい」と言った社員の懇願を無視して、出勤させたのか？ 本来なら、社員が「体調が悪い」と言ってきたらまずは、病院へ行きなさいと言うのが管理者の判断ではないのか。世界中の騒動がまったく分かっていない管理者・・・「世界中豚インフルエンザ」で騒いでいるこの現実が分からない「ノーテンキ管理者」 ただただ仕事の欠員を出さない為か、それとも助役の自己保身の対応だったのか、私達社員は「管理者」に殺されかけていると言ってもおかしくない。

## 「忠誠心」を発揮する管理者たち！！

以前も、このような問題がありました。その社員は出勤前体調が悪くなり会社に電話しようとしたが、出勤せよといわれるのが分かっていた為、無理をして出勤し自宅の前で体の不調を訴えて亡くなってしまったのです。

私達は、二度とこのようなことを起こさせない為に労働組合としてしっかり、会社に申し入れを行って行きます。

今までも言っているが「命令と服従」や「忠誠心」では、社員の健康や安全を守ることは出来ない。このことは労働者ならば誰だって分かることです。しかし、葛西会長の大好きな「命令と服従」「忠誠心」は管理者の自己保身と出世の為の魔法の言葉なのです。社員が病気になっても出勤を強要し使えなくなると「ポイット！！」

私達は、このような社員の健康状態を考えない会社の対応に対し、労働組合として断固たる対応を行うものです。

前回の、「手歯止め割損」のときの助役の対応もそうであるが、今回の修繕担当助役の対応の事実関係を早急に社員に明らかにせよ！！

**社員の健康と安全は「命令と服従」「忠誠心」では守れない！**